

「海の命」実践報告

新発田市立五十公野小学校
教諭 鈴木 真史

1 はじめに

物語の山をとらえることは、作品の価値やおもしろさに気づくことと直接的につながると考える。今回は、既習教材「ごんぎつね」の山を確認し、その主題を考えさせた後、本実践の「海の命」の山と主題を考えるという手順で学習していくことにした。「ごんぎつね」は、ごんのつぐないの行動の多さが、兵十の後悔の強さになる点に作品の価値とおもしろさが見て取れる。こうした一方、「海の命」は、太一の敵であるクエをしとめようとする気持ちの強さが、海の命を守らねばという気持ちの強さになる点に作品の価値とおもしろさが見て取れる。どちらも、登場人物の気持ちの大きな変化が見られ、山をとらえやすい。山の確認後、主題をとらえさせるため、本文の山の部分を初めから提示しないでおき、その山がどのような展開になるか想像させる。読み進むうちに予想できる物語の展開や「ごんぎつね」でとらえた展開などを参考に文章を作らせる。自分で想像した文章と、本文の文章とを比較し、その異同のわけを考えることで物語の山だけでなく主題をとらえさせたいと考える。

主教材 「海の命」

2 本実践で取り上げた手だて

(1) 「海の命」の山場(第27段落)の部分を消去した文章で読み進める

教科書を配布せず、山場となる部分を消去した文章を提示する。初めから山場の書かれていない文章を提示し、さらに次のような手だてをとる。

(2) 他教材(「ごんぎつね」)との比較を行う

物語の山とは、「登場人物の気持ちが大きく変わるところ」また、「物語の最後の方に山が来ることが多い。」と指導する。その上で「ごんぎつね」の山を探る。「ごんぎつね」の山は、「ごんおまいだったのか」の部分である。ここで、兵十の気持ちが憎しみから後悔へと気持ちが180°反転する。ごんの兵十に対するつぐないの行動がたくさんあればあるほど、この後悔の気持ちが大きくなる。この反転の気持ちと、後悔の気持ちが大きくなる理由を図示しながらまとめ物語の山をとらえさせた。

(3) 「海の命」の山を想像する

物語の山の部分を示さず、各自で想像して書かせる。物語の流れからすると「父の敵をとることに執着している太一なのだから、クエをしとめる」という展開が十分に予想できる。しかし、実際には、クエをしとめることはせずそこで止めてしまう。ここで、「なぜやめてしまったのか」といった問いが生ずる。その問いの答えを見つけることが主題をとらえることにつながっていく。

3 指導計画

1次 物語の概要を知ろう

(1~2時) 物語独特の言い方や、言葉に隠された意味を確認しよう

(3~4時) 場面分けをしてあらすじを書こう

2次 物語の山を考えよう

(5~6時) 「ごんぎつね」の山を考えよう

(7~8時) 「海の命」の山を考え、物語を作ってみよう

(9時) 自分や友だちが考えた「海の命」の山と題名から主題を考えよう

(10時) まだ読んでいない27段落以降を読み、作者の考えた主題をとらえる。

3次 物語の楽しみ方を知ろう

(11~12時) 学習の流れを確認し、物語読み方マップにまとめる。

4 「海の命」の山を想像した結果

26段落に続く物語を200字前後で書かせた。物語の内容を分類すると次の6つのパターンに分けられた。なお、分類上のタイトルは、内容を一言で表現し、話し合等を効率的に行うためにつけたものである。子どもたちにもこのタイトルは示してある。

分類番号	物語の内容	分類上のタイトル	人数(24名のうち)
①	しとめる	達成、喜び	12
②	しとめたが心残りがある	達成、喜び、不安、疑問	4
③	太一が息絶えた	無念	1
④	大魚をとってはいけない気持ちになる	変換	4
⑤	力不足で討ち取れなかったが続けた	継続	1
⑥	大魚は、他の魚にやられた	無念	1

どの内容であっても自由に想像した内容であり、太一の気持ちに変化していることに間違いはない。しかし、題名「海の命」や、太一の父の生き方について考えた内容とかけはなれたものもある。そこで、次のような流れで公開授業を行い、海の命の主題を考えさせた。

5 「海の命」の主題を考えさせるために

(1) 本時の流れと子どもの反応

①自分の作った内容がどの分類（達成，や喜びなど）になるのかを確認する。

②自分の作った内容で考えると，海の命の主題はどなるか考える。

分類上のタイトル	子どもたちの考えた主題
達成，喜び	挑戦することは大切だ 夢を追い求めれば達成できる
達成，喜び，不安，疑問	夢は大切だが，命を粗末にしてはいけない 復習だけが全てではない
無念	がんばっても成功するとは限らない
変換	少し考えてから行動することが大切だ 命をうばうことはよくない 一人前になる道はたくさんある
継続	やり直して挑戦することが大切だ

*上記分類番号⑥は無念に入れた。

③「海の命」という題名から主題を班で考え発表する。

T：この物語の題名は『海の命』ですよね。この題名から考えたときにどんな主題だとびっくりくるのかな？

A班の話し合いの様子

- c1 海のめぐみというのが関係あると思うけど
- c2 海の命だからがんばればできるというのは違う。
- c2 おれ「変換」の主題が正しいと思う
- c3 お父さんが関係してると思う
- c1 「命をうばう」に何か付け足そう
- c2 「むやみに」を付け足そう
- c3 「むやみ」っていい？
- c4 海があたえてくれた命をむやみにうばわない
- c3 それいいね
- c2 人間は生きるためにとるんだからむやみに命も奪うよ
- c3 「むやみ」はふつうを超えているっていうことだよ

B班の話し合いの様子

- c1 クエは海の生きもので海の話だから・・・
- c2 海のめぐみとか
- c1 海のめぐみってことは，海の命の一部だからその言葉は生かした方がいいと思う。
- c3 魚をむやみにとるなってことでしょ
- c1 じゃあ主題は「魚をむやみに殺すな」？
- c3 取りすぎないじゃない？
- c1 「取りすぎない」にするなら理由を考えなくちゃ・・・「千匹に一匹」って書いてあるな

④ 班の話し合いから自分ならどのような主題にすべきと思うか考え直す。

この活動の結果，全員が「海の命を大切にしてほしい」といった主題がふさわしいと記述した。記述の一例を次に示す。

M子

海を大切にだと思えます。理由は，海の命があるからそれをもらって人間も生きていけるし

H子

海は人に食料を与えてくれるから，大切に使った方がいいという主題がいいと思いました。

T男

海は危険だがめぐみも与える。人が海で死ぬこともあるが，海は魚も捕らせてくれる。クエも海の命の一つ。人も魚も同じ命。普通に魚を人は食べているけど本当は魚も同じ命だから簡単に殺してはいけない。

(2) 実際の本文を読んだ後の子どもにとらえ

27段落を読ませた後，主題について思ったことを記述させた。記述の一例を示す。

K子

瀬の主にはほほえんだのは，父は村一番のもぐり漁師だったから，たぶん姿を変えて瀬の主になったと思ったからだと思う。自分が書いたものより太一の心が大きく変化していたと思う。

K男

自分が考えた物語と全く逆だった。クエを殺さなかったのは，やはり命は大切だということを言いたかったんじゃないかなと思う。

Y子

自分の考えた物語と立松さんののは違っていた。自分はクエをついて終わったけど，立松さんは，クエをとらないで命を大切にしたら終わり方だった。命を大切にしたら方がいいって考えたのだと思った。

Y男

一人前になると常識もくつがえされる。殺していい命などない。魚を捕りすぎると生態系が変わってしまう。

自分の予想との比較をすることで，作者立松和平が伝えようとしたことや，そのためのストーリー上の工夫について考えることができていた。

6 成果と課題

物語には山があること，その山は主題に大きく関係していること，そして，主題を伝えるために作者が表現や構成の工夫をしていることをとらえることができたのではないかなと思う。

本文を提示しないで読み進めていくと，物語の山が見えないだけに関心が弱まったり，山につながる伏線を捕らえられなかったりする。この点が課題である。